

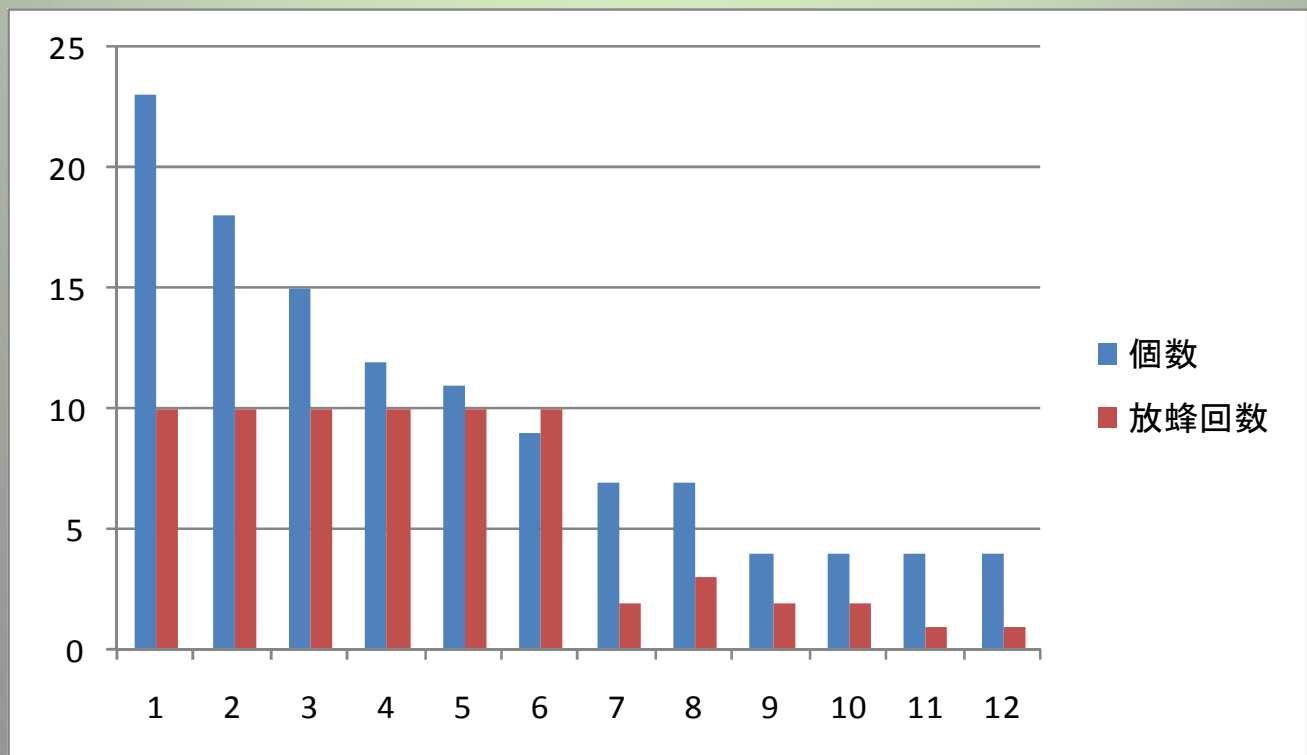
放蜂の功

1. 女王放蜂は功をあげているか？

ハチ愛好会に出席していろいろな人の意見が乱れ飛ぶとき、決まって『女王は放さないほうがいい!』、という意見である。私は毎年放しているが、放すことを良しとはしていない。現在の地蜂環境はかなり逼迫している、と見ている。放しないと絶滅する地区（もう何年も全くハチを見なくなった場所も出ている）が増える可能性が大きい、と感じているためである。

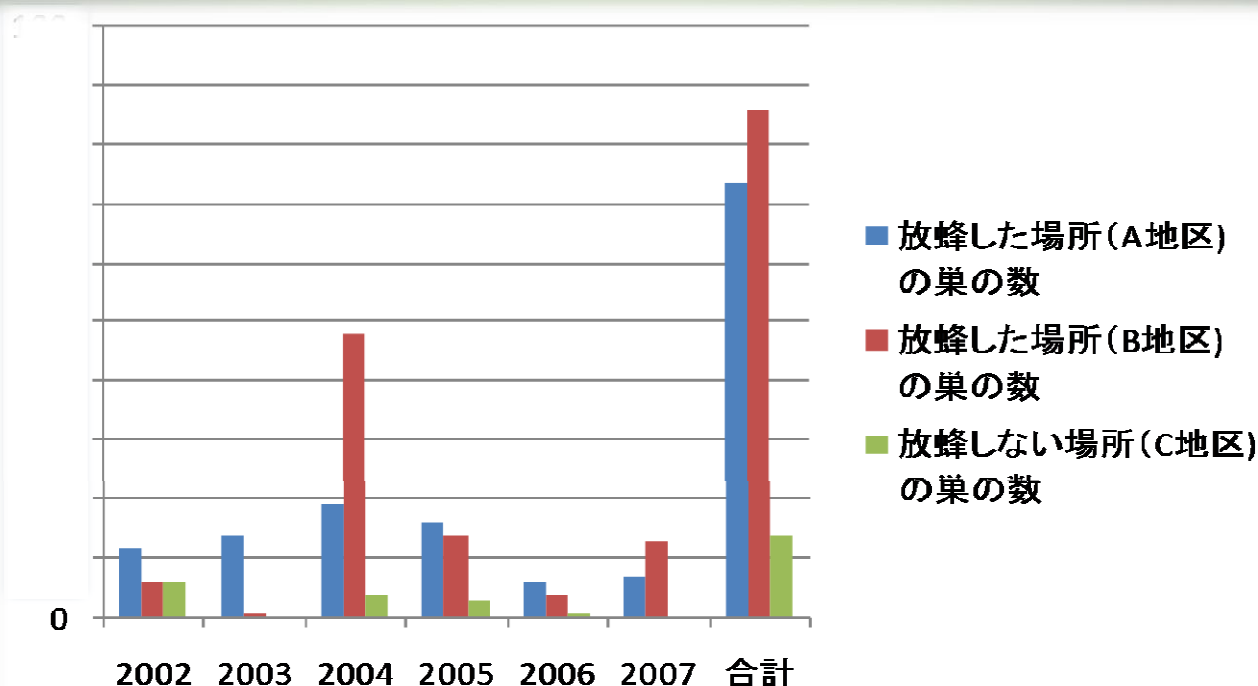
人が獲る分を放しているような気がしているのである。それはそれでいいのではないか、という気もするが・・・。自然状態での繁殖は人が入り込めない山奥でひっそりと生き延びており、人が獲れなくなった場所から復元していくこともまたあるのであろう。

【数年間の12地区の巣の数と放蜂回数の結果】



放蜂繁殖と自然繁殖

【ABC 3 地区の放蜂した場所としない場所の巣の数】



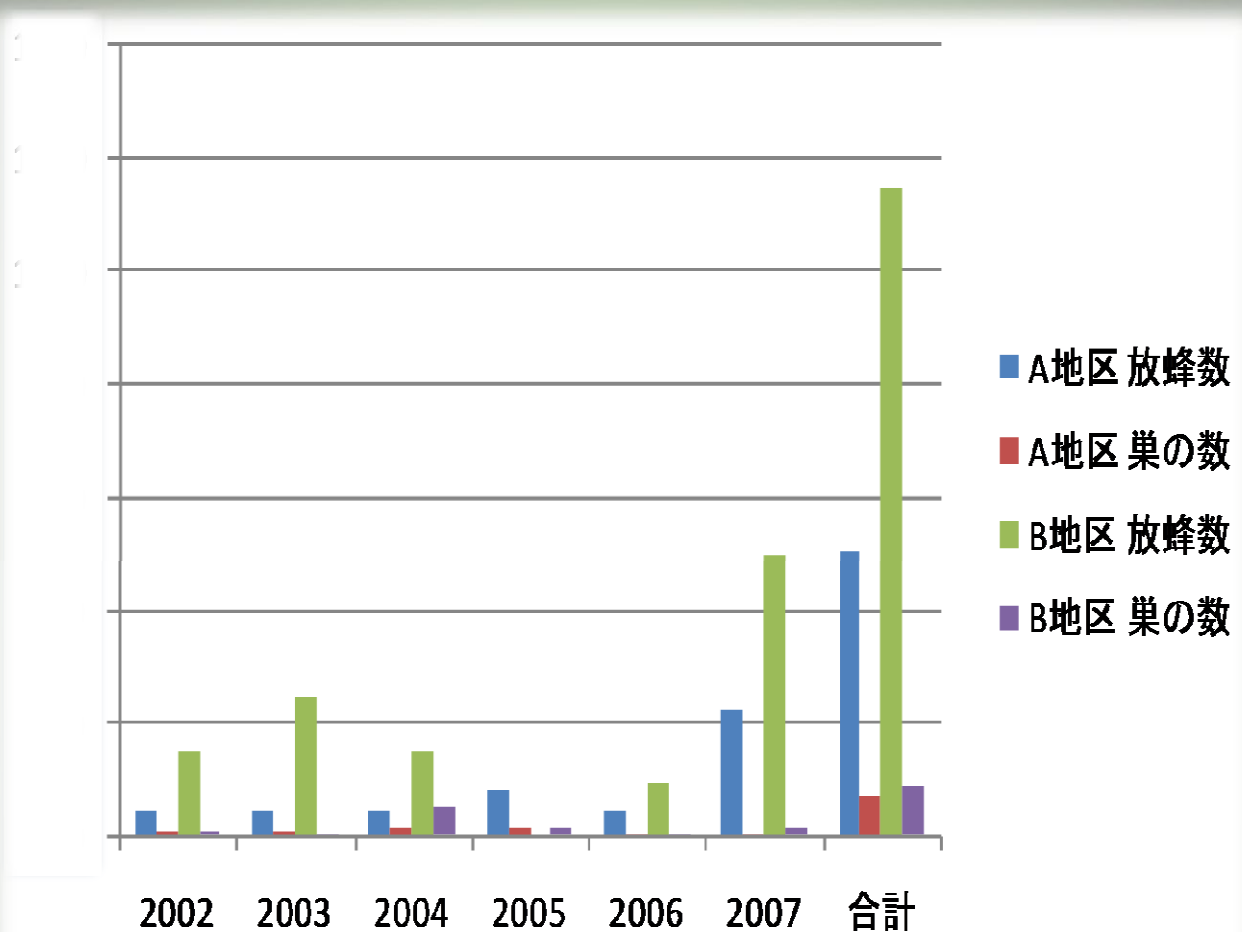
ここ6年間の3地区の放蜂したところとしないところを比べてみた結果、

- ①04年は特別ブレイクした年であるものの、明らかに放蜂することによって発見される巣の数は差が見られる。
- ②放蜂しなくてもなんとなく1年おきに巣は獲れる、という感じもする。

本当はこのまま3年誰も捕獲せず放っておき、山で自然な繁殖をさせたほうがいいのではないかといつも思っている。しかし、放っておくと、秋までに90%は他人が持っていくことになる。

放蜂数の差による 巣の数

【AB2地区の放蜂数と巣の数】



ここ6年間の2地区の放蜂数による巣の数を比べてみた結果、


①放蜂数の多少で巣の数がそれほど変わらない

理由は放蜂女王が多いとき、巣が生存できる範囲（餌）を超えると乗っ取りが促進され、殺しあうだけで巣の多さにはつながらない。

②放蜂数と巣の数の割合は10%、自然巣が含まれるため、半分の5%が着巣率と見ている。

放蜂の罪

2. 女王放蜂の罪とは？

女王など放さなくていい、という人は少数確かに居る。曰く、自然の恩恵の分だけいただき、山にあるだけ食べればいい、自然のものはそうあるべきだ。それに、鳥のレバーや烏賊なんぞで育った女王は軟弱で自然界のバランスを崩すから好ましくない。遺伝子の関係でも地域固有の固体が汚染されて、結局は絶滅の状態を作り出した事例はいくらでもある。他地域の固体を拡散させるべきではない。放蜂しなくても  グラフのように獲れるときは獲れるものなのだ、と。

